



早稲田大学 立川稲門会会報

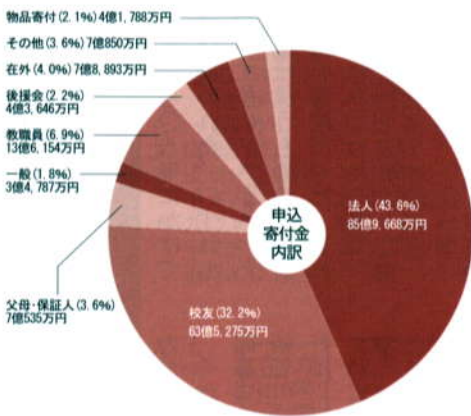
2008年11月24日
第13号
発行 立川稲門会
事務局 立川市曙町2-32-3
ザパル立川302
篤海会計事務所内
電話 042-527-6191
FAX 042-524-9570

創立125周年記念事業募金 達成率トップは立川市

断トツの達成率である。大学からの依頼額1975万円に対し、1億5095万円の達成額であった。いずれの募金も知らないうちになされたのではなく、会員の自発的な、または、地道で粘り強い努力により達成されたものである。大学史上、この達成率は永久不滅のものと思われる。

●申込寄付金総合計 **20,235,981,624円**
(2008年度に寄付金申込内諸分 520,000,000円を含む)

●申込総件数 **107,494件**



都道府県支部（東京都は稲門会）ごとの目標額設定に対する達成率トップ10を以下に紹介します

東京都		東京都以外	
1	立川市 764.3%	山口県	465.1%
2	福生市 473.3%	京都府	198.7%
3	品川区 252.1%	宮崎県	188.4%
4	千代田区 242.2%	兵庫県	165.4%
5	中央区 166.5%	沖縄県	145.9%
6	文京区 160.7%	鹿児島県	123.5%
7	港区 127.2%	愛知県	122.5%
8	豊島区 127.2%	岩手県	118.8%
9	東久留米市 124.5%	三重県	118.2%
10	板橋区 123.8%	大分県	111.8%

たくさんのご協力ありがとうございました。
二〇〇八年稲門祭が一〇月二六日無事終了いたしました。関係者の皆さんお疲れ様でした。
今年の稲門祭のテーマは「温故知新」。キャッチフレーズを「来たれ、心のふるさとへ」としました。一二五周年を終えて改めて母校を見つめ、母校の地を踏みしめ、母校への愛を感じてほしいと願いました。
一都三県をめぐった稲門祭の主旨も今年の三多摩支部で締めくくりとなります。思えば二〇〇六年一二月から三多摩準備会を立ち上げてきたのです。

当日、朝の雨にはドキリとしましたが、企画は盛りだくさんでした。恒例の校友音楽祭や理工科創設一〇〇周年を記念しての理工科学生による科学実験、デジタルタ
ッパダンス。世相を反映した講演会。当時のスポーツをDVDと講談で仕上げた「WASEDAスポーツアーカイブス」みんな好評でした。大隈庭園やキャンパスも模
擬店やイベントで賑わい、三多摩支部のテントでも元気のいいスタッフの協力で三多摩名物を完売しました。記念品売上也目撃額を越

今年度の稲門祭の成果は二〇〇人以上の実行委員ひとりひとりが役割を果たせるよう所属を明確にして部長以下所属を整え、毎に責任をもって行動したことで、そして詳細な緊急対処マニュアルや、イベントのノウハウをデータベース化できたことです。これは次年度に引き継がれるものと
自負しております。改めて校友のエネルギーを集結するのには、稲門祭は大きな意味も持っていると感じました。鶴海三多摩支部長、稲門祭事務局長の亀井さんと三多摩の本部長たちの底力、立川の皆さんの応援に支えられて達成感あふれる稲門祭でした。心から感謝申しあげます。
(S40・独文)

稲門祭を終えて

二〇〇八年稲門祭実行委員長 志村 順子



第35回定時総会

日時 平成20年11月24日(月、祝)
会場 立川グランドホテル
総会 一四〇〇〜一四三〇

東京三多摩支部大会

開会 一五二五
来賓 早稲田大学総長 白井克彦
早稲田大学理事 本多聖治
東京都23区支部支部長 立岡幸夫

記念講演

一六〇〇
講師 映画監督 神山征二郎氏
演題 『ラストゲーム最後の早慶戦』を監督して

懇親会

一七三〇
アトラクション
早稲田大学ハワイ民族舞踊研究会によるフラ・ダンス

懇親会費 七千円
(他に年会費三千円)

卒業証書のこと

和田 宏

家内とは早稲田大学で同級である。不愉快なことに学業はあちらが上であった。子どもが二人の成績表を見比べると、私の方が成績が上よる。子どもが二人の成績表を見比べると、私の方が成績が上よる。子どもが二人の成績表を見比べると、私の方が成績が上よる。

勤続何十年の表彰状とか、地域活動の感謝状などを壁に飾ってある家があるが、卒業証書はまず掛けない。友人宅で一番目につくのは自慢の「囲碁三段」の免状で、これは賞状ではなく認定証とでもいべきもの。卒業証書も同類だが、なくすのは論外としても、自

慢するには、少々気が引けるものらしい。

卒業証書の行方はともかく、そこから生じる「資格」のおかげで私は出版社に就職できた。ところが、仕事の相手は「作家には、早稲田大学中退という資格が一番」などと、なんだかわけのわからぬことをいっている人たちであった。卒業しないのが自慢なのである。資格がないのが資格というのだから、資格がいらぬのである(ヤヤコシイな)。

亡くなった作家の吉村昭さんが「僕は学習院大学中退ということになってるんだけどね……」と話したことがあった。重い結核を患い、肋骨を何本もとっている。ために体育の実技が受けられず、単位が取れなかった。

国勢調査のときに最終学歴を書く欄があったので、それじゃ「高卒」だと書くとうとして待てよ、と考えた。結核と勤労動員をくり返すうち終戦になり、ついに肺の大手術を受けた。快復したころには学制が変わっていて、大学に行くことができたが、高校を卒業した記憶も卒業証書もない。高卒でもない!

クラブの合宿で行った美ヶ原で



吉村家の若い二人のお手伝いさんはれっきとした高卒である。彼女たちは、尊敬する作家であり、この家の主である先生が学歴欄に

自らの最後、どう意思表示

錦織 文良

二〇〇五年から〇八年にかけて三度も病魔に襲われた。いずれも生まれて初めて体にメスが入ったのだが、病巣は違うものの、相当に危うい状況の連続だった。それは後になってかみしめたことで、それぞれ「あわや」の命拾いだっ

定年で現役を退いても、日ごろ丈夫な体を過信していて、つい我慢をすぎて手当てが遅れたのだ。あつものに懲りて、以来すべて慎重になった。

病院のベッドでは、現代医療のさまざまな断層を見た。医師、看護師、薬剤師が患者と接する自信と力量、癒す心や技術力などだ。彼らに身を預ける患者たちは、まさに千差万別だ。病気や体力や気力、家庭事情や社会背景など、すべて異なる人たちが、膨大な数のベッドで治療・看護・管理されている。何かを必死に訴える人がいる。わめき暴れる人がいる。医師や看護師に異議を唱えやりあう人がいる。ドクターもナースも病院自体も、それに個別具体的な答えは出せない。それを何とかしてき

たのが、心の通い合いとその浸透

「中卒」と書くのを見て、目を丸くしたらしい。この話をした時の吉村さんのいたずらっぽい顔が忘れられない。(S 40・仏文)

力だったはずだ。

それらが解決しようがしまいが阿鼻叫喚の時は確実に流れ去り、結着の時の来る。徒然草で吉田兼好は「死は前よりしも来たらずかねてうしろに迫れり」と喝破した。死は前から徐々に近付いて来るのではない、突然、背中からポンとサインがあるのだ、というのである。両親を看取り、いま残っているのは九十四歳になる妻の母だけである。心残りのない世話をしようと、ここ数年、妻は故郷の米子で専従している。時折り故郷に帰って様子を見るが、支援態勢のバランス維持は欠かせない。

親たちの生き死にを通じて、総合福祉にかかわりを持つようになり、六年前には、高年者デイサービスのNPO設立に理事として参加した。そしていまは、医療・介護の先祖返りとしての「在宅死」を推進する活動にまで至った。

病院80%、自宅13%の数字が示すように、多くの人が望む在宅死を全うするのは、とても難しい。昭和三十年代の前半と比べ、数字が逆転した。主役である患者と家族、その心身を支える医療・介護との終末の連携態勢に課題が多すぎるのだ。地域医療の原点ともいえる、「患者と家族の人生に寄り添う医療」のレベルまで求めるとすればなおさらである。

私は、自由で静かな最後が望みだ。が、それはかなり独りよがり

で、人間はそう簡単に人生を締めくくることはできない。「その時」には必ず周囲の手を煩わすことになる。それならまず、自分の心構えをしっかりとしておくことだ。最後の迎え方をデッサンしておくのである。在宅介護に家族のルーチンは欠かせないから、医療・介護とのコミュニケーションだけでなく、普段から家族に自分の希望を表明しておくことだ。その通りに行くかどうかはともかく、それが自分の「覚悟」であり、世話をかける社会へのメッセージ義務だと思う。日頃の段取りの具体化を改めて迫られた体験だった。(S 38・政経)

多摩中央葬祭株式会社

代表取締役

森 山 勇 (S 37・政経)

立川市錦町四一八一三
TEL (〇四二) 五二五一二二三〇
FAX (〇四二) 五二五一〇四三四

立川駅のお弁当

株式会社 エヌ・アール・イー 中村 幸久 (S 36・政経)

TEL (〇四二) 五二四二二〇一
FAX (〇四二) 五二六二二六〇〇人材育成・社員研修
㈲ オフィス広瀬

代表取締役 廣 瀬 俊 夫 (S 39・文)

立川市西砂町一六六一三
TEL (〇四二) 五三二二二六八七
FAX (〇四二) 五三二二二六八七

裁判員制度始まる

あなたも裁判官に

榎本 信行

今、法曹界の話題は、裁判員制度で持ちきりである。

来月五月、いよいよ裁判員制度が始まるという。殺人、強盗などの重大犯罪について、三人の裁判官と六人の一般市民が共同で裁くという制度である。

現在の裁判は、むしろ裁判官だけで行っているが、裁判官は、法律は勉強しているが、必ずしも一般常識が豊かではなく、刑事裁判は、書類審査が中心でどうしても

警察でつくられた調書が重視される。免罪の温床になる。そんな反省のもとに、裁判に市民が入って貰って、豊かな経験と常識に基づいた判断をしてもらおうというものがある。裁判員は、有権者名簿から抽選で決められるから、無論あなたも裁判員に選ばれる可能性がある。ただ、確率は三千五百人に一人だという。大いに関心を持っていただきたいと思う。最寄りの裁判所に呼び出されることにある。

裁判員は、原則として辞退できない。裁判は三日間が原則という。法廷で審理を聞いて、裁判官を含めてみんなで評議をして、有罪か無罪かということと刑をどうするかも多数決で決めるわけだ。評議の秘密は守らないといけない。裁判員制度の概略は、以上のとおりであるが、この制度については、いろんな批判や心配がある。まず、新聞、テレビなどで、ある人が極悪犯人として報道されている場合、裁判員が影響を受けるのではないかと、マスコミとの関係である。裁判員はテレビを見るなどというわけにはいかない。

また審理をなるべく短くするという必要から、十分な審理が出来ないのではないかと。特に、被告、弁護人側に不利ではないかという危惧がある。

さらに、一般市民に死刑の判断を強いることはできるのか、という問題がある。ある被告人について死刑相当と思った場合、それを宣告する立場は非常に重い。一生背負っていかねければならない。裁判員制度については、このほかにいろいろ問題があつて、施行延期説もあり、これから、進めていきながら改善するという考え方もある。(S33・法)

ホームカミングデーに出席して

川端 博美



退職です。肺がんで半分を切除した、胆のう胆管全部とった、家内に先立たれた……。幸いにもクラスメートの一人の物故者もな出席の一三名全員、程度の差こそあれ、まだ、髪もあつた。

十月二六日稲門祭当日、二〇年ぶりのクラス会がリーガロイヤルホテルで開かれました。卒業後三五年目のホームカミングデーでもあり、朝から記念式典に講演会、各支部自慢の地酒をほしご酒、まづ当たらないであろう車に夢を託し抽選会が終わってから駆けつけるなど、それぞれの用事を終えて出席者全員で乾杯の盃をとったのは三時半を過ぎておりました。

法学部49年卒、我がF3会は仏語を第一外国語に選択した集団です。一、二年次には週五日、顔を合わせた仲間であり、ゼミよりもサークルよりも結束力は抜群。三五名中女子二名。在学中はそれはそれは大切にされました。

前回のクラス会はまだ三十代後半。青年の面影もまだいくらかは残り、現役第一線。仕事の話に花が咲き、海外勤務が決まった、家を買った、三人目の子供が生まれ……、まさに人生の「朱夏」を語っておりました。そして今、「白秋」。早期退職した、会社倒産で有化、本体にはいられなくなつて出向……。話題の中心は健康と

これからは毎年、稲門祭のこの日に集まろうということになりました。話は尽きず、二次会に「高田牧舎」に流れると私たちより二十年は先輩かと思われる皆様で貸切。負けじとその数軒先のカフェバーの二階を貸切にして爆笑、爆笑、校歌放吟。人生、「白秋」の次は「厳冬」ではなく、「青春」に戻ろうと一年後の再会を誓い合いました。(S49・法)

共に青春を謳歌した仲間との絆

原 健一

昭和34年に早大を卒業してから今年で五十年目となる。

大学が卒後25・35・45・50年目の校友を対象に開催している「ホームカミングデー」の招待状を七月に受け取った。瞬間、在学時代を含めた五十四年間の社会変貌とその変化に対応しながら生きて来た歴史が走馬燈のように頭をよぎった。ただ、この五十年早大を意識することは少なかった。

就職先の職場では公私とも同門意識は殆どなかったが、取引先との関係では同窓生に助けられる事は少なくなかった。

それでも昭和48年以降は毎年クラス会を実施、共に青春を謳歌した仲間との絆を深めて来た。仲間との友情が母校そのもの、一貫した心の拠り所だった。

早大を卒業した事を一番誇りに感じているのは現在かも知れない。立川稲門会の仲間との交流が大きな要因だと思っている。感謝。そんな気持ちで十月二六日

当日は学校が用意してくれた八号館の教室に、級友二〇名が集合(五七名中一五名鬼籍)学内散策の後、リーガロイヤルホテルで懇談した。夜のクラス会の方が出席者(最近では三〇名弱)が多いのは未だ元気の証拠か。当日の稲門祭には立川稲門会は三多摩支部の一員として大隈庭園に模擬店を出展しており、波多野・佐竹さん等の奮闘振りを拝見した。クラスの仲間と青春の日々を振り返り、現在の大学に触れた一日だった。(S34政経)



- | | | | | | |
|--|--|---|--|--|--|
| <p>立川税理士法人
税理士 村野俊輔 (S57・政経)</p> <p>立川市柴崎町二四一九村野ビル2F
TEL (042) 5221895
FAX (042) 5221895</p> | <p>立川市曙町二一六一〇
TEL (042) 5331333
FAX (042) 5331333
Eメール: 1ap@namba@dream.com</p> <p>代表取締役 中村信 (S38・文)</p> | <p>電子制御機器の開発設計
技術コンサルタント
株式会社 エルテック
代表取締役 長野長正 (S32・理工)</p> <p>東大和市中原一三三三
TEL (042) 5661033
FAX (042) 5661033</p> | <p>TOKYO大樹法律事務所
弁護士 榎本信行 (S33・法)</p> <p>新宿区新宿一〇一三
太田紙興新宿ビル八階
TEL (03) 3354966
FAX (03) 3354133</p> | <p>公認会計士事務所
鶴海量良 (S37・政経)</p> <p>立川市曙町二一三二二
サンパレス立川三〇二号
TEL (042) 527191
FAX (042) 5241957</p> | <p>社会保険労務士法人 木村事務所
代表取締役 木村幸 (S63・社会)</p> <p>労働保険事務組合 経営者多摩福栄会
立川市曙町一四八二 日ビル四階
TEL (042) 5351307
FAX (042) 5351307</p> |
|--|--|---|--|--|--|

2008年稲門祭を盛大に開催

実行委員長は志村順子立川稲門会副会長

さる一〇月二六日(日)開催された第43回ホームカミングデーの当日、二〇〇八年稲門祭が「来られ、心ふるさとへ」をキャッチコピーに、テーマを「温故知新」として同時開催された。

今年の稲門祭は三多摩支部が主管となり、実行委員長には志村順子立川稲門会副会長、事務局長には亀井裕子同副幹事長、運営委員には木村辰幸同幹事長、佐竹茂市

郎同副幹事長、小林章子同幹事、監査役として鶴海量良同会長が会の運営にあたった。

大限庭園での稲門祭模擬店には三多摩支部からも「ふれ愛のサロン・ド・三多摩」の名称で出店、その実行委員長には佐竹副幹事長があたり、さらにスタッフとして小林和雄、波多野進、堤清らが加わった。

稲城の梨および梨ワ

イン、東久留米のせんべい、町田の和菓子およびつまみ、小平のブルーベリー洋菓子、立川・狛江からアサヒビールの缶ビール、国分寺の紅茶とお菓子、八王子の名産品、調布のお茶、支部提供の嘉泉(田村酒造)の二斗樽などが出展され、完売いたしました。



▲賑わう早稲田キャンパス



(講堂)



稲門研究会

良さんが

総長を囲んでの記念撮影
三多摩支部は「ふれ愛のサロンド三多摩」の名称で模擬店を出店 ▶





寄稿
『都の西北に早稲田の心を思う』
鈴木茂夫氏が大宮で講演

大宮稲門会会長
高橋 均

さる十一月九日(日)、大宮稲門会では立川稲門会の鈴木茂夫氏(S 29・露文)をお招きして講演(『都の西北に早稲田の心を思う』と題しての一時間余のお話は、学生時代に何度

も繰り返し歌った『都の西北』に詠まれている深い内容、「われら」「早稲田」「久遠」「大島国」などのことば

今日も世界の各地で『都の西北』は歌われているでしょう。すばらしい校歌を持つわが母校を、再認識する良い機会になりました。

今年も学ラン姿で 早稲田祭パレードに参加

学生自主企画・早稲田祭2日目の11月3日(月、祝)午後、早稲田キャンパス一周パレードが行われた。稲門会立川支部からも3名が、学ラン姿でこれに参加。街ゆく人々の興味を集めていた。(左から堤清、佐竹茂市郎、鷺海量良、狛江の宮澤会長)



▲福引の抽選をする志村順子稲門祭実行委員長(大隈)



▲大隈庭園内ではハワイ民族舞踊によるフラダンスの披露も
◀研究会設立の功労者・鷺海量良氏紹介され、挨拶



◀白井克彦氏



Photo : 中村 信

▲完売記念の手締め



わが町小樽、故郷を憶う

佐竹 茂市郎

私の生まれ故郷は、北海道小樽市です。現在は運河のある町として年間七四〇万人(平成19年度)の観光客が来ていますが、最近五年間では、約一万人の人口減となっており人口は、一三万七千人の都市となっております。戦前は、北海道有数の町として、伊藤整、小林多喜二の両文学者が同時期に住んでおり、一大文化都市でもありました。私は、高校(小樽潮陵高校)まで小樽市に住んでいたのですが、当時は、斜陽の町と言われており、現在のような観光スポットもありませんでした。町は、坂が多く高台からは、どこからも海が見え、交通の便(バス便)が良い魅力的な(私の勝手な考えかも?)町です。

父親の50回忌は七年前に、母親の17回忌は今年済ませており、実家も売却していますので、現在は帰っても泊まる場所もありませんが、高校の同窓会(東京潮陵博中会)や東京小樽会などに参加し小樽を思い出しています。高校の同期会も年二回定例で行っており、いつも、夜遅くまで、故郷の話をしています。写真は同窓会三大会の際のものです。

北海道人は、よく標準語を話すと言われていますが、小樽に帰ると、あいかかわらず小樽弁の会話が待っています。

次の会話は高校の後輩が同窓会誌で紹介した小樽弁の会話です。

標準語での魚屋での会話

客「お客さん、ししやも買っつて」

魚屋「これ卵入ってんの？」

客「小さいわりには卵すごく入ってるよ」

客「だったら頂戴、五千円で大丈夫？」

魚屋「大丈夫大丈夫、そんなこと心配いらなから」

小樽弁での魚屋の会話

魚屋「お客さん、ししやも買っつてや」

客「これ、こっこ入ってんのかい？」

魚屋「ちっこい割にはがっつり入ってるしよや」

客「したら頂戴、五千円でいいかい？」

魚屋「なんもなんも、そつたらこと心配することないしよや」

こんな日常会話が飛び交う小樽

甲州古道の旅Ⅱ立川散策の会 笹子峠越えて今年の計画を完了

立川散策の会の甲州古道を歩く企画も先日笹子峠を越え、今年の計画を完了した。

早春の二月二十六日に高尾から小仏峠越えて相模湖まで12kmを十一名のメンバーで歩んだのが初回。七、八月の盛夏は避けたが毎月第四火曜日、出来るだけ古道を選びながら甲州街道を歩み七回目の一〇月二十八日に紅葉が美しい難所の笹子峠を越えた。



前列左より、中村克久・小木曾夏樹・古川剛久・井川芳栄、後列同、大上保・大岩泰世・内野光男、撮影、原健一

古の人々の生活を偲び、甲州の美しい山々を眺めながらの歩行は天候にも恵まれ楽しい旅だった。今年ではこれで打ち切り、下諏訪までの道中は来年の楽しみ。その前に日本橋から調布までを歩く計画あり。

JR中央線では高尾から甲斐大和迄53km、鈍行では僅か六七分の距離を江戸時代の名残を求めながら歩むと、ほぼ80km弱の行程だった。これを最短7km、最長17kmと七回に分けて歩き、合わせて三二時間程で歩いたが、当時の人々の旅の大変さを身を以て体験した。

甲州街道の宿場としては駒木野宿(日本橋より十二番目)から駒飼宿(三三番目)まで二一宿を通過、意外に史跡が保存されていないのが残念だった。それでも僅かに残っている本陣で当時の生活を垣間見、本陣跡・一里塚・各種石碑で昔を偲ぶことができた。また小仏では山道の凍結に悩まされ、笹子では昔の難所の名残を十分に味わった。各回六〜一三名、合わせて一七名が参加、江戸の名残を現代との関わりの中で楽しむことが出来た。

歩きながらの会話もお互いの友情を深め、学ぶことが多い。会費は年千円、出欠は当日の体調次第で自由である。入会希望の方は世話人の中村克久まで。

宮野司法書士事務所
行司 宮野 孝雄
(S 57・社会学)

昭島市中神町一五七番地三四
TEL (042) 5461641
FAX (042) 5461641
携帯 (090) 3311840
E-mail: smp@office.kuno.co.jp

建築設備設計事務所
三井企画株式会社
建築設備士
代表取締役
小林 和雄
(S 47・理工)

立川市錦町四一五一五
TEL (042) 5261324
FAX (042) 5221281

大下・広瀬共同会計事務所
公認会計士
代表取締役
広瀬 明夫
(S 48・商)

東大和市中央一五九七一
TEL (042) 5621045
FAX (042) 5621265

東京貿易株式会社
代表取締役
町田 弘
(S 35・法)

中央区八丁堀二一三二一
TEL (03) 35551700

米田税務会計事務所
税理士
米田 典弘
(H 6・社会)

立川市高松町三一四一四〇
TEL (042) 5611263
FAX (042) 5611261
E-mail: 939801hkw@zeitsihkai.org

学校法人 実践女子学園
理事長
高橋 芳樹
(S 34・商)

日野市大坂上四一
TEL (042) 5851880
FAX (042) 5851880

観桜会 今年も賑やかに

事務局便り

恒例となった観桜会を、今年は桜前線の予報を確かめて、三月三十日(日)と早め昭和記念公園パイクニューガーデンで開催した。

昭島稲門会から四名、国立稲門会から二名のゲストに加え、立川稲門会は会員三三名と同伴家族七名、さらに現役学生二名が出席、総勢四九名が参加して賑やかに開催された。

今年も、アサヒ飲料(株)の岡田正昭社長(S34・商II立川稲門会員)、アサヒビール(株)西東京支店澤田賢一課長(S63・教育)からビール他の寄贈があり、また、伊藤勲会員(S36・西洋史)から今年も三万円の寄付をいただき、会に華をそえた。

駕海量良会長の挨拶もそこそこに、いつものことで会員諸氏はそれぞれ手慣れた手つきで調理を始めた。肉が焼き上がれば、これも次々と談笑の輪の中に配られ会は盛り上がりました。観桜会と言いつながら、この会ではやはり桜は添え物で、早稲田在学時の話題や時宜的话题の豊富さで他の会の輪と異なっていたようだ。飲み、かっ食べ、かつ話し、時間が過ぎて、やがて散会となった。

「昼酒で酔っております花吹雪」ということで、一部会員は連れ立ち高松町での二次会に流れて行ったとも洩れ聞いております。

平成二十年(二〇〇八年)は立川稲門会にとって盆と正月が一度に来たようなものだった。

▼一つは持ち回りで東京三多摩支部の支部長という役職が、もう一つはその東京三多摩支部が二〇〇八年稲門祭の主幹を務めたことだ。前者の支部長には私駕海が、後者の実行委員長には志村順子副会長が仰せつかることになった。

▼支部長稲門会としてすで行った行事は、会長会一回、初めて催された事務局会議が二回、支部大会幹事会が四回、東京都23区支部と東京三多摩支部合同会長懇話会が一回。そして一月二四日の支部大会。

▼東京三多摩支部の大会参加者数はだいたい一五〇名前後であるが、この数は首都圏の一都三県のうち最低である。その大きな原因の一つに全国四八支部のうち東京三多摩支部のみが参加費を地区稲門会が負担している例が多いことがあげられる。同窓会に出るのにその費用をお金のない会が負担するというのは、まさに本末転倒である。これでは参加者が増えるはずがない。もちろん当会は自己負担で参加しており、主幹稲門会以外では参加者数が一番多い。そこで各稲門会に対し今年の支部大会から自己負担で参加していただくようお願いしているが、賢明なご判断を期待したい。

▼一方、昨年の一二五周年の反動で低迷が懸念されていた稲門祭は、志村順子委員長の強い責任感と熱意とが多くの関係者の共感を呼び、全体の記念品販売高は目標二千万円に対し二千万円強、来

場者数は六千五百人となり大成功裏に終えた。記念品販売については、立川稲門会は本部依頼額の一十二万円に対し最終的には四四・六万円、全国各稲門会最高の達成率三七二%を成し遂げた。

▼さらに稲門祭パンフレットの協賛広告も目標四百万円を五〇万円上回った。この上積み分は、以下のように立川稲門会扱いのものである。すなわち①東京貿易(株)会長は町田弘(株) ②アサヒ飲料(社長は岡田正昭(株)) ③医療法人社団宇誠会(理事長は佐藤孝彦、監事駕海量良(株)) ④ワロム産業(株)(社長は志村一郎(株)) ⑤志村エステート(株)(専務は志村順子(株)) ⑥医療法人財団稲仁会(クリニクス)東陽町(理事長は岡本克郎、理事駕海量良(株)) ⑦NRE中村亭(社長は中村克久(株)) ⑧多摩中央葬祭(社長は森山勇(株))である。暖かいご協力に心から感謝申し上げます。

▼このように東京三多摩支部が主管となった稲門祭の成功は、立川稲門会の志村順子実行委員長が中心となり、会員皆さまの強い協力なご支援があったからこそ可能となった。次に立川稲門会から参加した委員のお名前を記して感謝に代えたい(敬称略)。志村順子実行委員長、亀井裕子事務局長、運営委員として佐竹茂市郎、小林章子、実行委員として木村辰幸、駕海量良。

▼さて母校創立一二五周年記念募金である。大学渉外局(前募金局)が発行している機関誌からの抜粋を一頁に掲げた。一億五千九十五万円の内訳は次のとおり。

個人 一億三、九三〇万円
 団体 一〇五万円
 法人 一、〇六〇万円
 団体は立川稲門会年会費三千元のうち千円を七年間続けた合計

額である。会員の皆さまに心から厚く感謝申し上げます。おそらく早稲田大学史上前人未踏の、永遠不滅の目標達成率を実現させていただいた皆さまに重ねて厚く感謝申し上げます。

▼一方、慶應義塾大学は今年で創立一五〇周年を迎える。募金も二年にして目標二五〇億円を達成した。さすがである。惜しみなく拍手喝采を送りたい。内訳は法人一八五億円、個人六五億円。実業界に数多くの逸材を伝統的に輩出しているだけに法人が突出している。個人に目を向けると二〇億円と一〇億円に各一人いるそう。

これもおすごい金額である。

慶應義塾には「全社会的先導たらん」という福澤諭吉の志が塾員に根づいているようだ。その歴史は慶應義塾にかかわる人たちがそれぞれの立場で誇りを持って刻まれてきたものと安西塾長は述べておられる。早稲田の良きライバル慶應義塾大学のますますのご発展を心から祈りたい。

▼毎年のことであるが、会報は継続広告スポンサーである会員の温かいご理解とご支援により成り立っている。このことは稲門会の理念に沿ったボランティアの重要な一環として位置づけられよう。お名前は名刺広告(順不同)をご覧いただくとして、今回は一七人

志村エステート株式会社
 取締役 志村順子 (S40・文)

立川市富士見町四一六一
 TEL (042) 521-0611
 FAX (042) 521-0612

医療法人 社団健医会
 西砂歯科医院
 院長 浅谷佳秀 (S62・法)

立川市西砂町五三三七八
 TEL (042) 531-1429

の会員から提供していただいた。心から深く感謝申し上げます。

▼広報委員長が錦織文良会員から中村信会員に交代した。ボランティアとして中村工房を稲門会のために公開していただいた上に、今回は責任者の立場で紙面作りをしていただいた。もちろん強力な助っ人としてご息大(はじめ)君の存在が今回もある。心から厚く深く感謝申し上げます。

▼この会報がお手元に届く頃は今年も残り少ない一月の終わりかと思う。来年も母校がますます発展するよう、また、会員皆さまにとって良い年でありますよう衷心よりお祈り申し上げます(駕海量良)

大学関係役員・校友会役員 立川稲門会選出役員決まる

さる六月、早稲田大学ならびに校友会の役員改選が行われ、立川稲門会からは左記の方々選出された。(＊印は新任)

- 大学評議員 駕海量良 (2006.7.1-2010.6.30まで任期四年)
- 大学商議員 駕海量良、志村順子、錦織文良(＊) (2012.5.31まで任期四年)
- 校友会幹事 志村順子(＊組織委員会副委員長) (2012.5.31まで任期四年)
- 校友会監事 駕海量良 (2012.5.31まで任期四年)
- 校友会代議員 木村辰幸、亀井裕子、佐竹茂市郎(＊) (2012.5.31まで任期四年)
- 小林章子(＊)

ゴルフ同好会 和気藹々と楽しんでます 長野 長正

ゴルフ愛好会が発足して十五年目、年二回の稲門会ゴルフコンペと、立川慶応三田会との早慶対抗戦を年一回行っています。

今年五月に第24回(優勝は松田敬吾)昭島稲門会・賛助参加)、十月に第25回(優勝は吉川義明)を、共に昭和の森ゴルフ場で行いました。早慶戦は今月末、武蔵野カントリークラブで行います。

現在の登録会員は二三名で、平均年齢は68歳?程となって高齢化が進んでおり、若年層の参入を大いに期待しているところです。また、世間では女性ゴルファーが話題を集めており、ゴルフ場でもよくお見かけするのですが、わが立川稲門会ゴルフ愛好会では一人もおられません。我々の勧誘法が悪かったのかなと反省しきりです。

ゴルフは径四・二糎、重さ四・五瓦の球を初速二三〇籽米で打出すと、高さ八〇米に達し、滞空時間六秒、飛距離はランを含めて三〇〇碼で、広々とした緑の芝生を

白球が飛んでゆく実に爽快なスポーツです。この魅力に惹かれて五十年。相変わらず下手なゴルフを楽しんでいます。

美しく整備されているフェアウエイ、コースの各所には季節の草花が植栽され、折々の木立の色づきに文字通りカントリーを味わいながら、ウォーキングでもしている気分が白球を追っているのだから上手になるはずがありません。いや、何時もグッドスコアで本当のスポーツゴルフを楽しんでいらつしやるメンバーの多くの方々は、申し訳ない話をしてしまいました。

メンバーには多趣多芸の方々が多くプレイ中の話題(稲酔会、散策の会、俳句の会など)も面白いものです。特に居酒屋での恒例の表彰と反省の会は、いつも賑やかで予算も時間もオーバーで、幹事からの「本日はこれまで!」の一言で、やっと終了する始末です。(S32・理工/電気)

酔いを愉しみ、談論つきず 今年も稲酔会は賑わいました

本年度の稲酔会の活動を開催順にお知らせします。

◆第30回稲酔会「19年10月25日。国立市「夏の家」この会場は歴史的に由緒あるハワイの料亭の姉妹店で、国立駅至近のティーハウスでした。

国立稲門会(二名) 多摩稲門会

納涼パーティ 盛りだくさんの催しと共に

さる八月七日、立川グランドホテル二階「ソアーベ」で立川稲門会恒例の「納涼パーティ」が開催された。

いつもの伊勢丹での会場の都合がつかずにホテルでの開催となったが、幸い広いスペースの会場となり、盛りだくさんな催しとなった。木村辰幸幹事長の司会、鷺海量良会長挨拶、近隣稲門会出席者



(二名) 文京稲門会からのゲストを加えて二二名が参席しました。

◆青梅線沿線合同稲酔会「20年1月19日。福生市・石川酒造内「雑蔵(ぞうぐら)」毎年恒例となった合同稲酔会で、後記のように今年も多くの方が参加して賑わいました。

あきる野稲酔会(六名) 青梅稲酔会(二名) 福生稲酔会(六名) 昭島稲酔会(四名) 立川稲酔会(一

紹介(木村)を行い、榎本信行相談役の乾杯で始まった。ハワイアンショウ第一部(江藤英彦司会)は、トウモンワヒネ(川端博美、小林章子、亀井裕子)のフラ、友情出演のバンド(江藤英彦、碓寛、鷺海量良、峯敬子)演奏、さらに堤清・ゆりの父娘共演のゲスト出演もあり楽しんだ。

関係者のスピーチをはさみ歓談で、しばしの時間をすごした。そしてお目当ての演しもの、市川いづみ先生率いる「イムアラ スタジオ」のハワイアンショウの第二部のフラダンス(江藤英彦司会)が始まり会は最高潮にたつした。

しばらく飲食・談笑を楽しんだ後、志村順子副会長の閉会挨拶で名残を惜しみつつ閉会とした。

出席は国立稲門会一名、府中校友会(二名) 多摩稲門会(二名) 西東京稲門会からのゲストを加えて二十名が参席し、大いに山海の珍味を愉しみました。



会一名、特別参加三名(校友、三田会、学生)、早稲田祭スタッフ四名、公演出演者六名、そして立川稲門会四七名で、計六五名が参会した。

このたびも、アサヒ飲料(株)岡田正昭社長(S34・商)立川稲門会(会員)アサヒビール(株)西東京支店澤田賢一課長(S63・教育)よりビール、アサヒ飲料新製品のご寄贈がありました。また、伊藤勲会員(S36・西洋史)から二万円のご寄付をいただきました。記して感謝の意を表します。

同好会連絡先

稲酔会	古川剛久	535-0717
立川散策の会	中村克久	527-3559
ゴルフ愛好会	江藤英彦	574-8835
駅伝同好会	小林和雄	526-3245
ラグビーを愛する会	大上 保	536-0940

編集後記
▼今号は、錦織文良広報委員長が体調が優れず、急遽代行しての責任編集となった。普段からの根回しを行っていただけのため、原稿集めには苦労しなかった。だが、逆にゆつたりとしたレイアウトになり、私を含め高齢者会員には目に優しい紙面になっているようだが、如何。(信)

広報委員会 小林章子・志村順子・長野長正・中村信・錦織文良・原健一・古川剛久・米田典弘・和田宏(五十音順) 鷺海量良
制作・アート 中村大(アイ・イー・ピー多摩)